

4. 出生前診断

出生前診断(1)

- 出生前診断の方法
 - 超音波検査、羊水検査、トリプルマーカーテストなど
- 受精卵遺伝子診断
 - 受精卵遺伝子診断に反対している団体も多くある。たとえば、日本ダウン症協会
 - 倫理的課題: 優生学・優性思想への接近

39

出生前診断(2)

- 胎児超音波検査におけるNTの計測
 - NT (nuchal translucency): 胎児後頸部にある皮下の液体貯留像。
- 倫理的課題
 - 医療情報を開示すべきという価値規範
 - 選択的中絶を助長すべきではないという価値規範
 - 「知る権利」と「生命の尊厳」の衝突

40

優生学(eugenics)

- 19世紀の「社会ダーウィニズム」が20世紀の優生学の先駆けとなった。社会ダーウィニズムとは、「生存競争」「適者生存」といった進化論的キーワードが社会における人間に当てはめられた考え方である。
- 優生学は進化論と遺伝の原理を人間に適用して、人間の自然的運命を改良しようとした。
- キリスト教的救済史観の世俗化。

41

優生学の展開

- ナチズムの人種優性政策
 - 安楽死の対象は「非生産的」人間すべてに向けられた。
 - 精神病患者、身体障害者、病人、同性愛者、浮浪者、売春婦、不満分子、常習飲酒者、犯罪者、老人

42

強制不妊手術の事例

- スウェーデン: 1935~76年にかけてスウェーデン政府が約6万人に不妊手術を強制していた事実が明らかになった(1997年8月)。
- 日本: 1996年まで施行されていた優生保護法によって、遺伝病患者や障害者ら少なくとも約1万6000人が、本人の同意がないまま不妊手術(優生手術)をうけさせられていた。

43

優生学の今後

- 「自己決定」であれば優生学ではないのか？
 - 英国では、出生前診断を公費負担することによって、障害者にかかる福祉コストを激減させている。
- 女性の自己決定権の中に「子どもの質」の選択を含むことができるのか？